

平成21年7月3日

## 平成20年中における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

## 1 概要

### (1) 全国の発生状況

平成20年中の山岳遭難は

発生件数 1,631件 (前年対比+147件)

遭難者数 1,933人 (前年対比+125人)

うち死者・行方不明者

281人 (前年対比+22人)

であり、発生件数、遭難者数、死者・行方不明者数ともに、昭和36年以降、過去最高を示した。

このうち、40歳以上の者(以下「中高年」という。)は、

遭難者数 1,567人 (前年対比+128人)

うち、死者・行方不明者

256人 (前年対比+19人)

であった。

過去10年間の山岳遭難発生状況をみると増加傾向にあり、平成11年と比較すると

発生件数 +436件

遭難者数 +489人

となっており、特に、中高年の遭難者数は409人増加している。

### (2) 都道府県別山岳遭難発生状況

遭難発生件数を都道府県別に見ると

長野県 182件

富山県 133件

北海道 128件

の順であった。

## 2 山岳遭難の特徴と未然防止対策等

### (1) 目的別・態様別

山岳遭難を目的別にみると、登山(ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む)、山菜・茸取りが多く全体の87.9%を占めている。また、態様別にみると、道迷い、滑落、転倒が多く全体の71.6%を占めている。

これらの遭難は、わずかな不注意や安易な行動がもとで発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要である。

登山計画書の作成、提出

気象条件、装備、食料、体力、体調、登山の経験と山岳の選び方、登山コース、日程等に配慮して、余裕のある、安全な登山計画書を作成し提出する。

危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

状況の的確な判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

滑落・転落防止

滑りにくい登山靴等の着用、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心がける。

## 道迷い防止

地図とコンパスを有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

### (2) 年齢層別

中高年の遭難者は1,567人で全遭難者の81.1%を占めているが、中でも55歳以上の遭難者が多く、全遭難者の64.0%を占めている。中高年の登山では、体力的に無理のない計画と十分な事前準備に特に配慮する必要がある。

### (3) 単独登山者

単独登山者の山岳遭難は、死者、負傷者ともに増加した。単独遭難者の死者・行方不明者は137人で、全単独遭難者の22.9%を占めているが、複数(2人以上)登山者における死者・行方不明者の割合(10.8%)と比較すると約2倍となっていることから、単独登山は出来るだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める必要がある。

### (4) 遭難件数に占める通信手段

全遭難件数の46.9%が遭難現場から通信手段(携帯電話、無線(アマチュア無線を含む。))を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請が増加することが予想されるが、携帯電話は通話エリア内での万が一の通話手段としては有効であるが、多くの山岳では通話エリアが限られていることから注意が必要である。

表1 概要

		平成20年		平成19年		増減	
		総数	うち中高年	総数	うち中高年	総数	うち中高年
発生件数(件)		1,631		1,484		+ 147	
遭難者(人)	死者	253	234	233	215	+ 20	+ 19
	死者・不明者	28	22	26	22	+ 2	± 0
	小計	281	256	259	237	+ 22	+ 19
	負傷者	698	586	666	552	+ 32	+ 34
	無事救出	954	725	883	650	+ 71	+ 75
	合計	1,933	1,567	1,808	1,439	+ 125	+ 128

注: 中高年とは、40歳以上の者を内数で示す。

表2 過去10年間の山岳遭難発生状況

	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20
発生件数(件)	1,195	1,215	1,220	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631
遭難者数	1,444	1,494	1,470	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933
うち中高年	1,158	1,135	1,127	1,223	1,298	1,309	1,372	1,507	1,439	1,567
死者・不明者	271	241	243	242	230	267	273	278	259	281
うち中高年	235	206	221	219	213	249	244	251	237	256

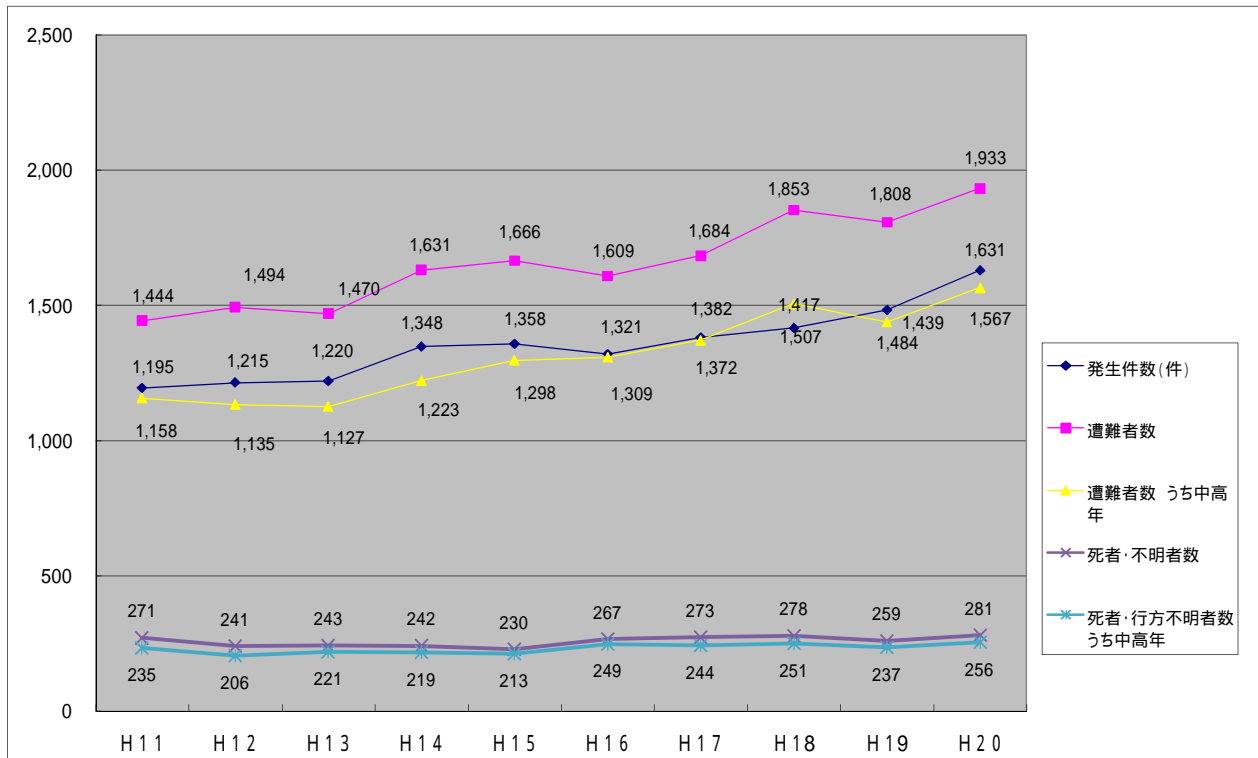


表3 都道府県別山岳遭難発生状況

都道府県	発生件数	遭難者総数	死者	行方不明	負傷者	無事救出
北海道	128	139	8	3	29	99
青森県	42	54	7	2	7	38
岩手県	36	40	6	1	21	12
宮城県	18	26	2	0	4	20
秋田県	85	95	19	0	24	52
山形県	65	71	13	2	35	21
福島県	68	85	11	1	25	48
警視庁	84	90	9	1	45	35
茨城県	9	15	1	0	1	13
栃木県	25	25	6	0	16	3
群馬県	44	56	14	2	15	25
埼玉県	41	52	3	0	22	27
千葉県	6	7	2	0	2	3
神奈川県	61	80	9	0	32	39
新潟県	64	73	12	0	32	29
山梨県	88	105	16	3	35	51
長野県	182	199	44	4	98	53
静岡県	65	76	12	0	28	36
富山県	133	159	16	2	61	80
石川県	18	21	3	0	14	4
福井県	3	3	1	0	0	2
岐阜県	55	67	5	3	27	32
愛知県	7	7	0	0	1	6
三重県	32	40	5	0	14	21
滋賀県	35	42	2	0	17	23
京都府	13	16	4	0	0	12
大阪府	4	4	1	0	2	1
兵庫県	45	72	4	0	20	48
奈良県	18	20	8	3	5	4
和歌山県	8	10	0	0	1	9
鳥取県	16	18	4	0	7	7
島根県	1	1	0	0	1	0
岡山県	3	3	0	0	2	1
広島県	11	22	1	0	1	20
山口県	0	0	0	0	0	0
徳島県	4	4	0	0	2	2
香川県	1	2	0	0	2	0
愛媛県	32	34	1	0	9	24
高知県	2	2	0	0	1	1
福岡県	12	17	0	0	7	10
佐賀県	3	4	1	0	2	1
長崎県	5	8	0	0	1	7
熊本県	7	10	1	0	2	7
大分県	22	24	1	1	12	10
宮崎県	9	10	1	0	5	4
鹿児島県	21	25	0	0	11	14
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	1,631	1,933	253	28	698	954

表4 目的別山岳遭難者数

	平成20年		平成19年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	1,087	56.2%	996	55.1%	+ 91	9.1%
	ハイキング	101	5.2%	126	7.0%	- 25	-19.8%
	スキー登山	51	2.6%	60	3.3%	- 9	-15.0%
	沢登り	18	0.9%	32	1.8%	- 14	-43.8%
	岩登り	24	1.2%	27	1.5%	- 3	-11.1%
	登山(合計)	1,281	66.3%	1,241	68.6%	+ 40	3.2%
山菜・茸取り	417	21.6%	360	19.9%	+ 57	15.8%	
溪流釣り	28	1.4%	24	1.3%	+ 4	16.7%	
作業	46	2.4%	32	1.8%	+ 14	43.8%	
観光	60	3.1%	36	2.0%	+ 24	66.7%	
写真撮影	14	0.7%	15	0.8%	- 1	-6.7%	
山岳信仰	25	1.3%	30	1.7%	- 5	-16.7%	
自然観賞	5	0.3%	3	0.2%	+ 2		
狩猟	5	0.3%	7	0.4%	- 2	-28.6%	
その他	52	2.7%	60	3.3%	- 8	-13.3%	
合計(人)	1,933		1,808		+ 125	6.9%	

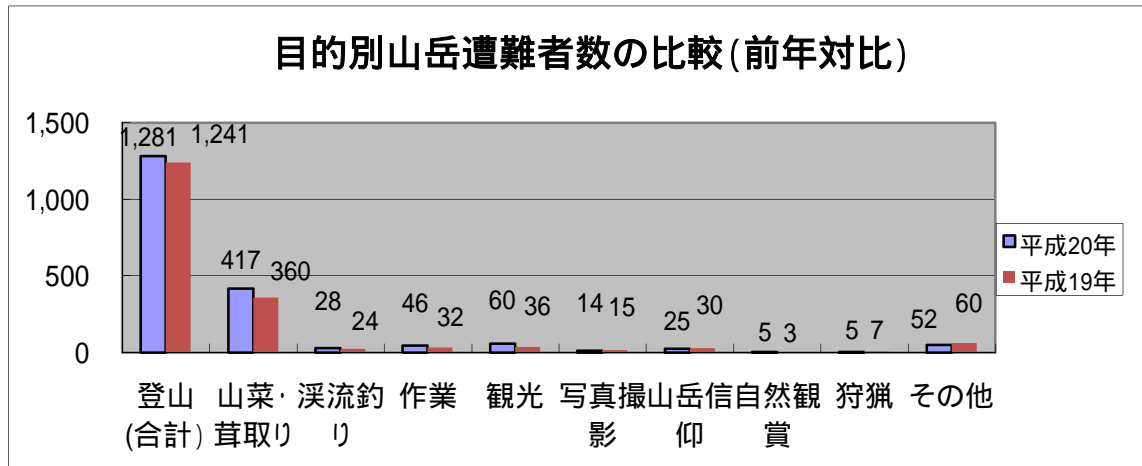
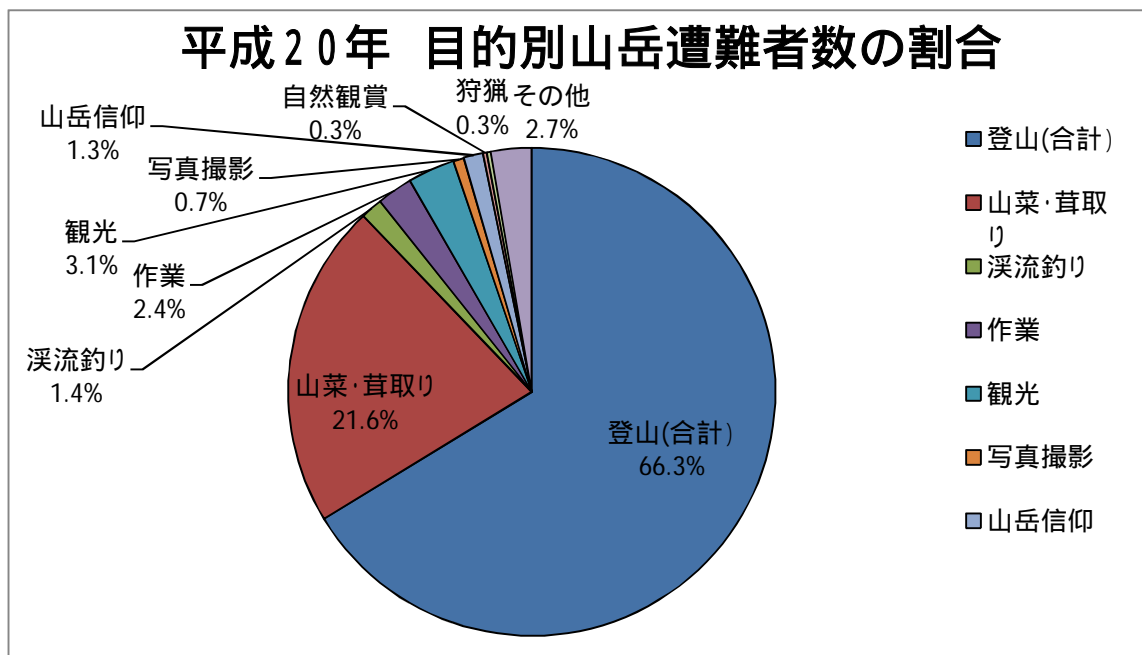


表5 態様別山岳遭難者数

	平成20年		平成19年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
滑 落	350	18.1%	312	17.3%	+ 38	12.2%
転 倒	265	13.7%	257	14.2%	+ 8	3.1%
転 落	102	5.3%	102	5.6%	± 0	0.0%
道 迷 い	769	39.8%	628	34.7%	+ 141	22.5%
疲 労	89	4.6%	94	5.2%	- 5	-5.3%
病 気	170	8.8%	146	8.1%	+ 24	16.4%
落 石	12	0.6%	17	0.9%	- 5	-29.4%
雪 崩	9	0.5%	73	4.0%	- 64	-87.7%
落 雷	10	0.5%	10	0.6%	± 0	0.0%
悪 天 候	12	0.6%	28	1.5%	- 16	-57.1%
有 毒 ガ ス	0	0.0%	0	0.0%	± 0	
鉄 砲 水	21	1.1%	6	0.3%	+ 15	250.0%
野生動物襲撃	24	1.2%	33	1.8%	- 9	-27.3%
不 明	43	2.2%	29	1.6%	+ 14	48.3%
そ の 他	57	2.9%	73	4.0%	- 16	-21.9%
合 計	1,933		1,808		+ 125	6.9%

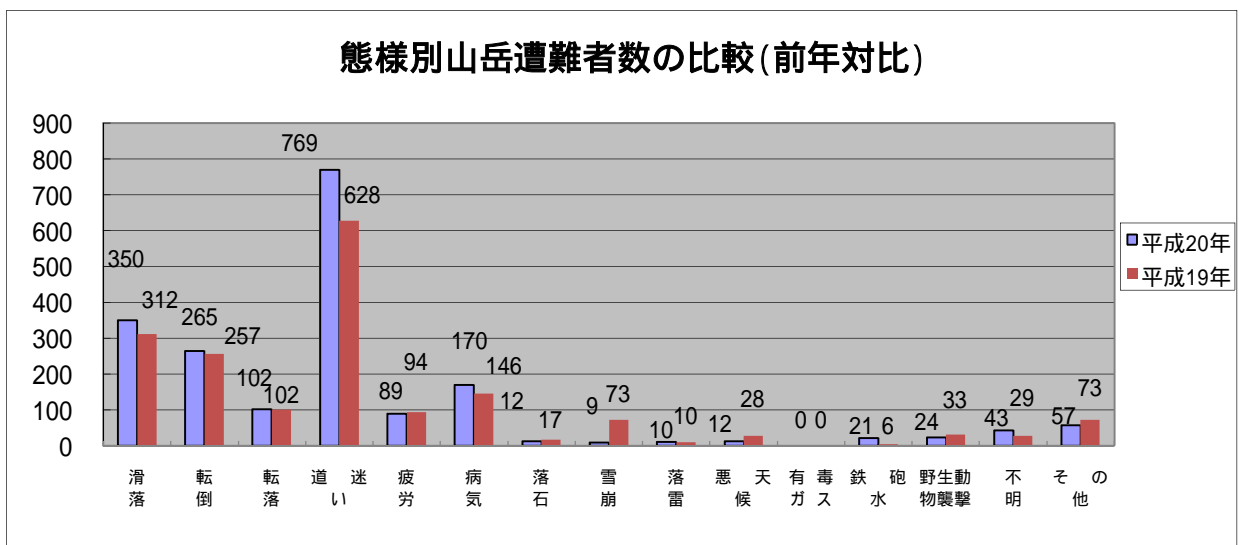
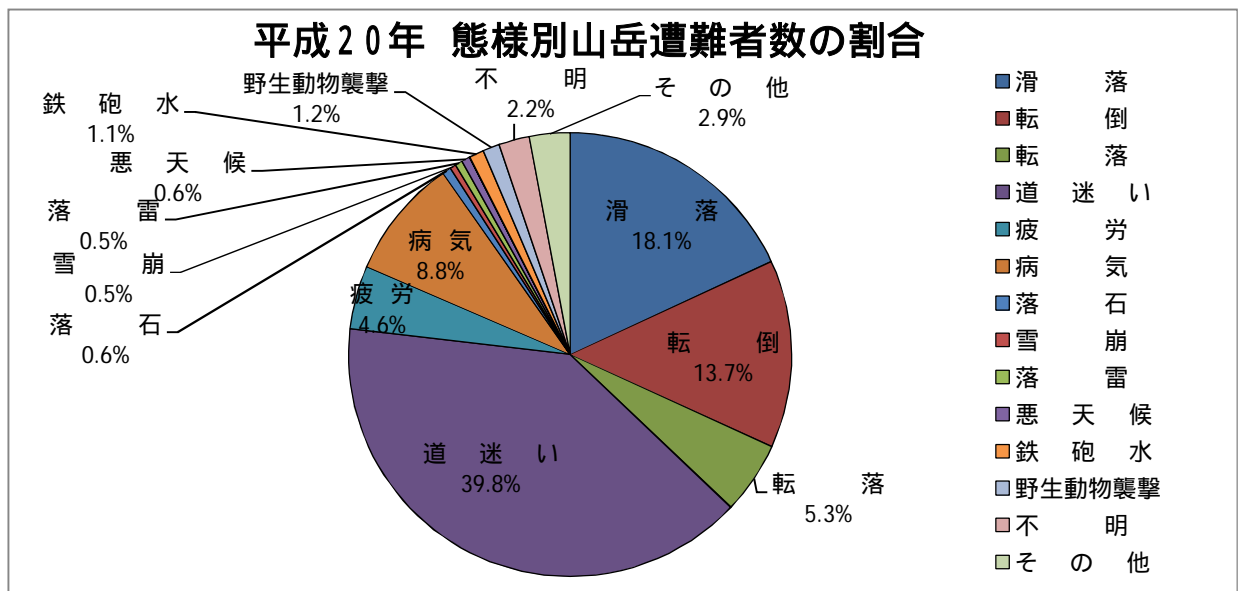


表6 目的別山岳遭難者数(中高年)

	平成20年		平成19年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	842	53.7%	769	53.4%	+ 73	9.5%
	ハイキング	77	4.9%	87	6.0%	- 10	-11.5%
	スキー登山	32	2.0%	34	2.4%	- 2	-5.9%
	沢登り	15	1.0%	26	1.8%	- 11	-42.3%
	岩登り	18	1.1%	24	1.7%	- 6	-25.0%
	登山(合計)	984	62.8%	940	65.3%	+ 44	4.7%
	山菜・茸取り	405	25.8%	351	24.4%	+ 54	15.4%
	溪流釣り	26	1.7%	19	1.3%	+ 7	36.8%
	作業	36	2.3%	23	1.6%	+ 13	56.5%
	観光	41	2.6%	29	2.0%	+ 12	41.4%
	写真撮影	13	0.8%	13	0.9%	± 0	0.0%
	山岳信仰	21	1.3%	25	1.7%	- 4	-16.0%
	自然観賞	5	0.3%	3	0.2%	+ 2	66.7%
	狩猟	5	0.3%	7	0.5%	- 2	-28.6%
	その他	31	2.0%	29	2.0%	+ 2	6.9%
	合計(人)	1,567		1,439		+ 128	8.9%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

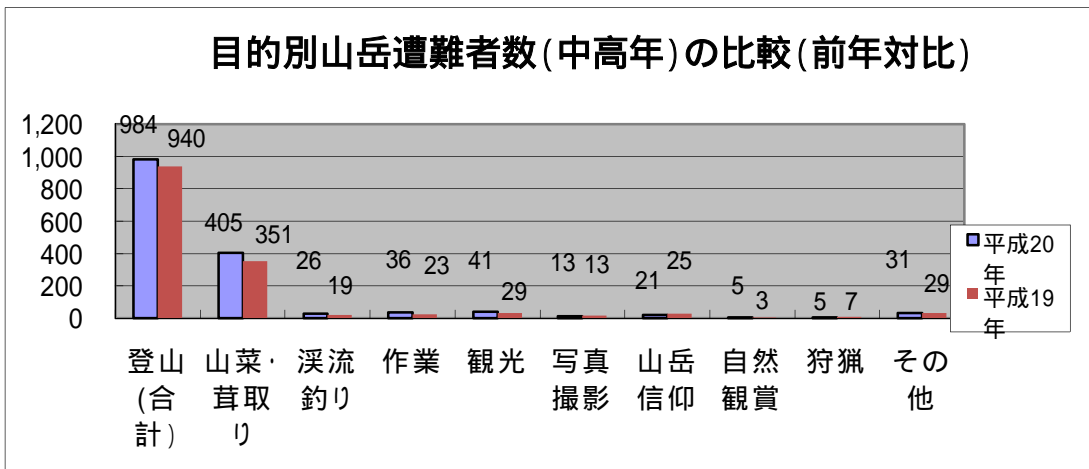
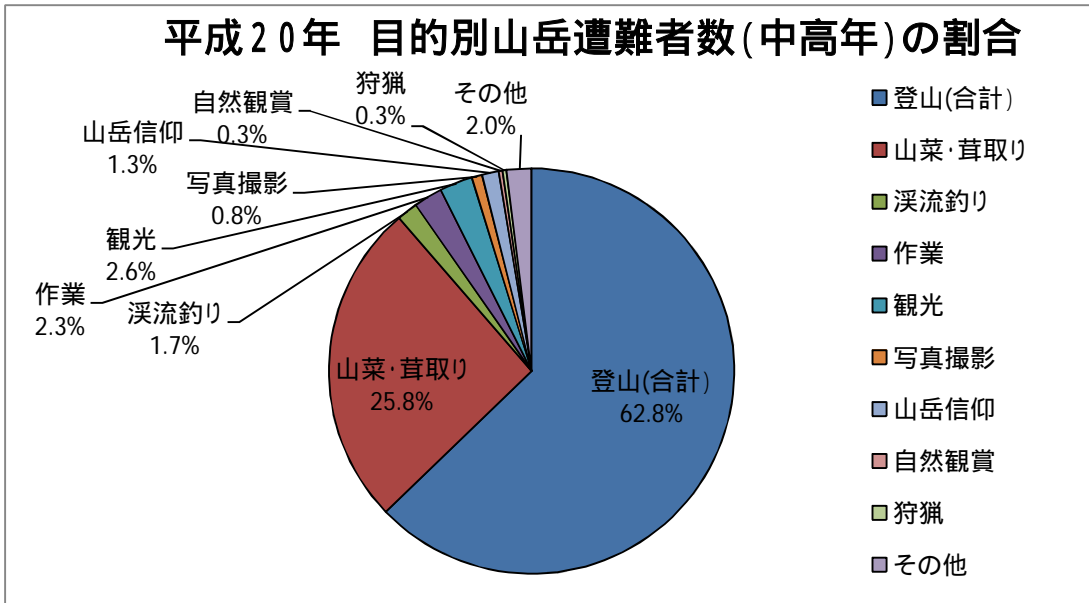




表7 態様別山岳遭難者数(中高年)

	平成20年		平成19年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
滑 落	299	19.1%	264	18.3%	+ 35	13.3%
転 倒	230	14.7%	225	15.6%	+ 5	2.2%
転 落	91	5.8%	84	5.8%	+ 7	8.3%
道 迷 い	580	37.0%	505	35.1%	+ 75	14.9%
疲 労	75	4.8%	76	5.3%	- 1	-1.3%
病 気	139	8.9%	111	7.7%	+ 28	25.2%
落 石	9	0.6%	14	1.0%	- 5	-35.7%
雪 崩	5	0.3%	39	2.7%	- 34	-87.2%
落 雷	10	0.6%	1	0.1%	+ 9	900.0%
悪 天 候	10	0.6%	19	1.3%	- 9	-47.4%
有 毒 ガ ス	0	0.0%	0	0.0%	± 0	
鉄 砲 水	20	1.3%	5	0.3%	+ 15	300.0%
野生動物襲撃	19	1.2%	31	2.2%	- 12	-38.7%
不 明	36	2.3%	24	1.7%	+ 12	50.0%
そ の 他	44	2.8%	41	2.8%	+ 3	7.3%
合 計	1,567		1,439		+ 128	8.9%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

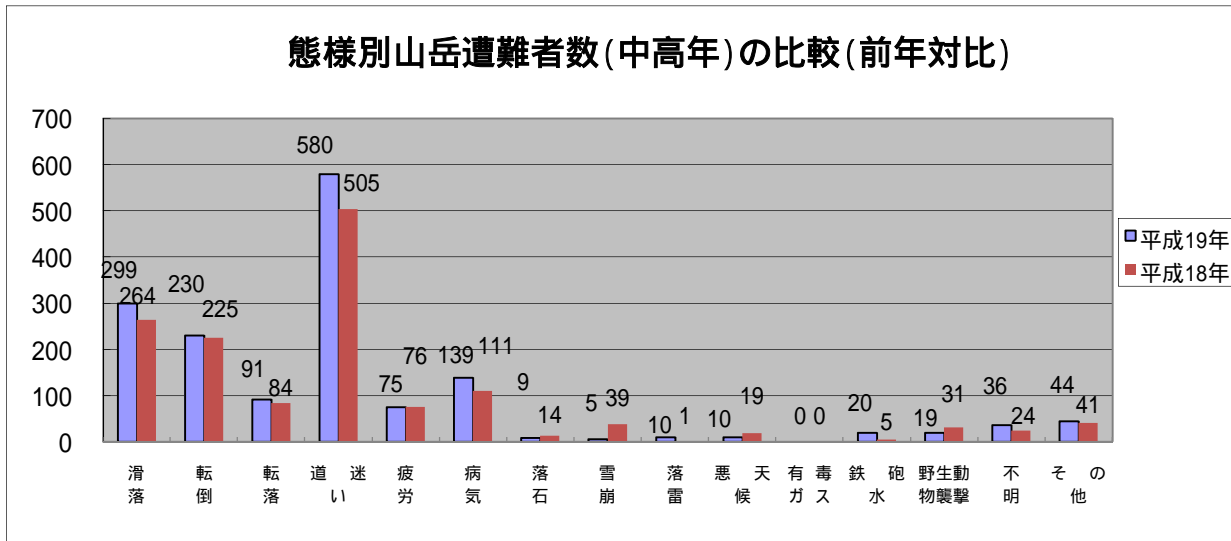
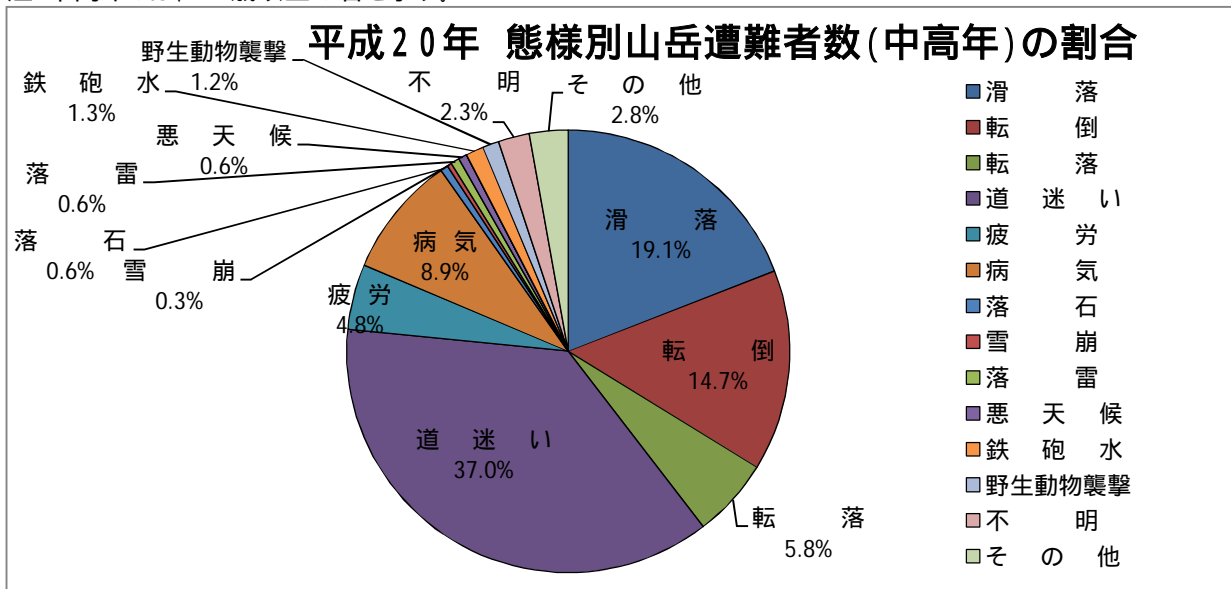


表8 年齢層別山岳遭難者数

	平成20年		平成19年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
15歳未満	57	2.9%	66	3.7%	- 9	-13.6%	
15～19	33	1.7%	26	1.4%	+ 7	26.9%	
20～24	65	3.4%	55	3.0%	+ 10	18.2%	
25～29	58	3.0%	49	2.7%	+ 9	18.4%	
30～34	76	3.9%	87	4.8%	- 11	-12.6%	
35～39	76	3.9%	86	4.8%	- 10	-11.6%	
中高年	40～44	87	4.5%	70	3.9%	+ 17	24.3%
	45～49	106	5.5%	97	5.4%	+ 9	9.3%
	50～54	136	7.0%	138	7.6%	- 2	-1.4%
	55～59	234	12.1%	263	14.5%	- 29	-11.0%
	60～64	323	16.7%	251	13.9%	+ 72	28.7%
	65～69	253	13.1%	267	14.8%	- 14	-5.2%
	70～74	198	10.2%	172	9.5%	+ 26	15.1%
	75～79	142	7.3%	119	6.6%	+ 23	19.3%
	80～84	63	3.3%	49	2.7%	+ 14	28.6%
	85～89	18	0.9%	10	0.6%	+ 8	80.0%
90歳以上	7	0.4%	3	0.2%	+ 4	133.3%	
不明	1	0.1%	0		+ 1		
計(人)	1,933		1,808		+ 125	6.9%	

注：中高年とは、40歳以上の者を示す。

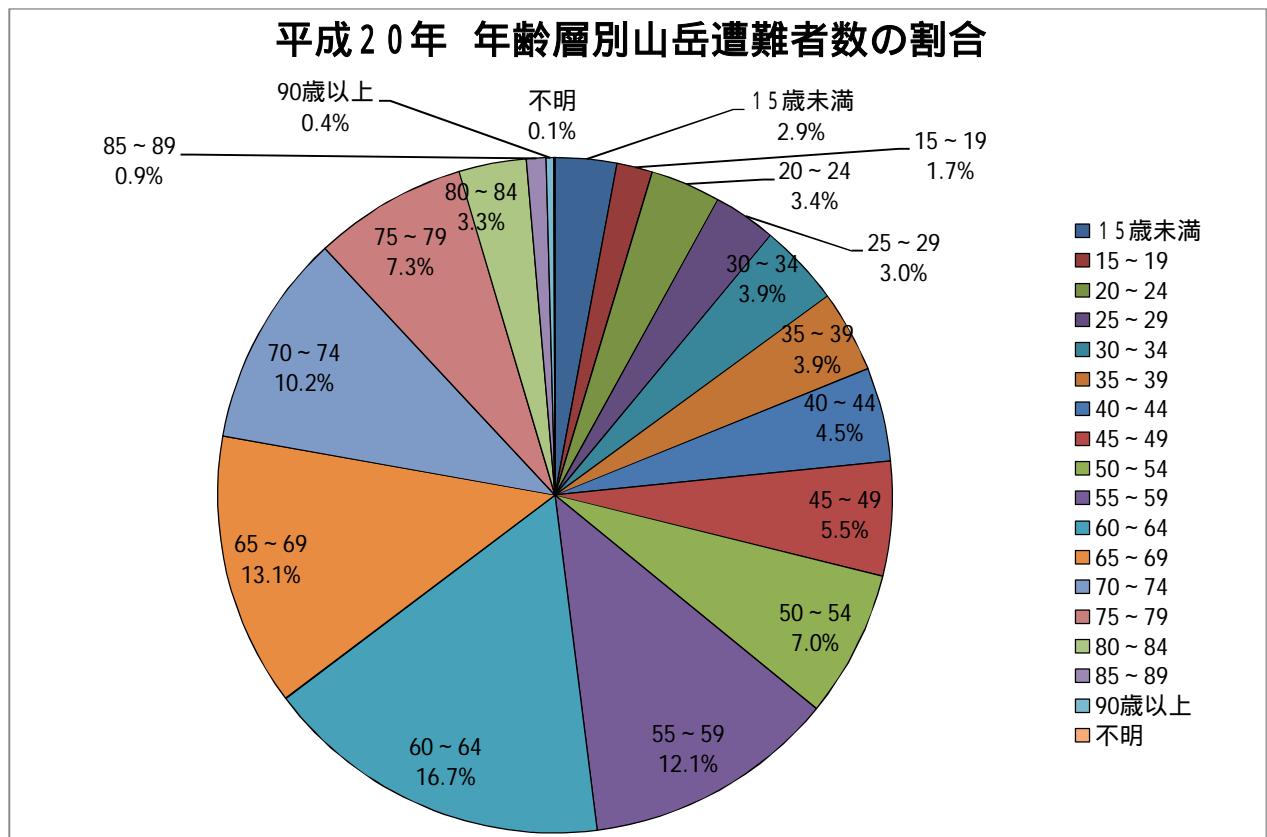
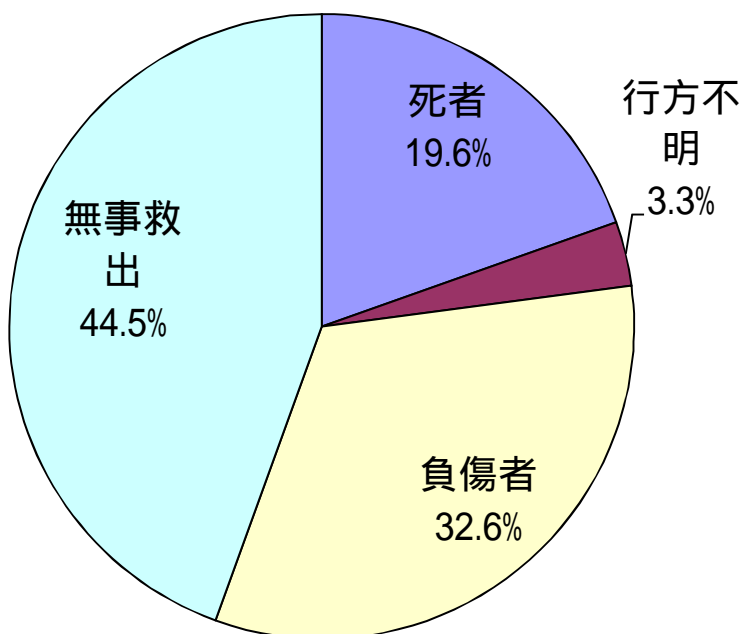


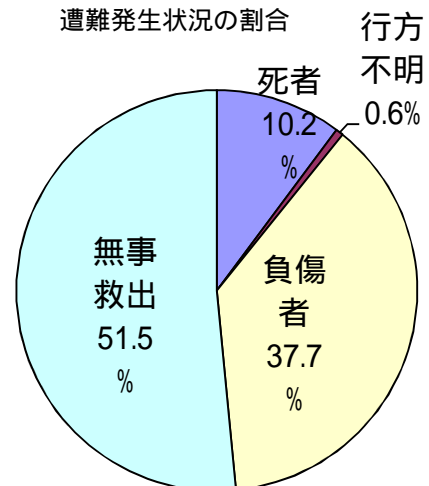
表9 単独登山者の山岳遭難発生状況(人員)

			平成20年		平成19年		増減	
			人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
遭難者	死者・不明者	死者	117	19.6%	105	20.6%	+ 12	11.4%
		行方不明者	20	3.3%	20	3.9%	± 0	0.0%
		合計	137	22.9%	125	24.6%	+ 12	9.6%
	負傷者		195	32.6%	160	31.4%	+ 35	21.9%
	無事救出		266	44.5%	224	44.0%	+ 42	18.8%
	合計		598		509		+ 89	17.5%

平成20年 単独登山者の遭難発生状況の割合



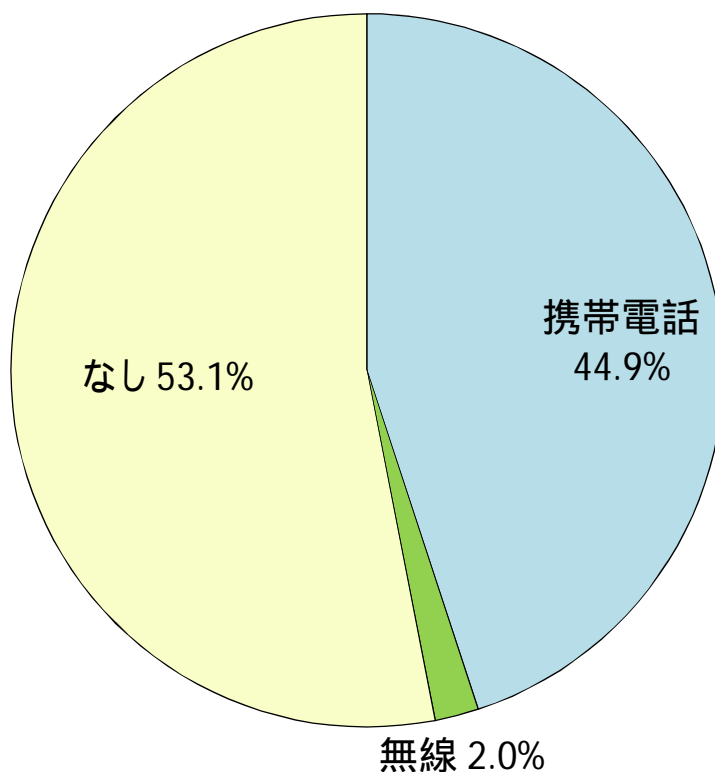
【参考】平成20年 複数登山者の遭難発生状況の割合



**表10 遭難件数に占める通信手段の使用状況**

		平成20年		平成19年		増減	
		総数	構成比	総数	構成比	総数	増減率
発生件数(件)		1,631		1,484		+ 147	
使用	携帯電話(件)	733	44.9%	708	47.7%	+ 25	3.5%
	無線(件)	33	2.0%	14	0.9%	+ 19	135.7%
	合計(件)	766	47.0%	722	48.7%	+ 44	6.1%
未使用(件)		865	53.0%	762	51.3%	+ 103	13.5%

**平成20年 通信手段の使用状況**



携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。